

「西田集落に伝わる豊年祭（旧暦9月9日祭り）の 除霊儀式『びっこさらっこ』への取組」

1 学校名

奄美市立大川小学校

2 学年・人数

大川小児童全員（39人）

3 日時・場所

（1）事前の準備や場所

旧暦の9月8日に西田公民館において、豊年祭の中の除霊儀式「びっこさらっこ」に使用する綱を編む作業を、集落の長老を含めた数人で行う。

（2）発表の日時や場所

旧暦の9月9日（本年度は10月2日）に西田公民館を出発して、集落内を7周する習わしであるが、最近では7周できていない。距離が長すぎることで、この後の敬老会や豊年祭が遅くなってしまうことによる。

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

（1）名称

「びっこさらっこ」

（2）由来

一説としては、約400年前の琉球統治時代にさかのぼる。

ノロ神さまの化身である、生き神さま（女性）の子どもが川に流され行方不明になった。その年は、農作物の不作や疫病など、集落に災いがたくさん起こった。子どもの霊を鎮めようと始まったのが「びっこさらっこ」である。

（3）構成等

「びっこさらっこ」の構成は、綱を引き回す場面、石を川に投げ込む場面、そして7等分して集落の鬼門に置き霊を封印する場面の三部構成である。

5 地域と学校との連携の具体

前年度のうちに、西田集落の公民館長から、今年度の「びっこさらっこ」の期日について連絡があり、協力を依頼される。

今年度になってから具体的なことが動き出すが、学校はその日が休日でない場合が多いので、それに向けて教育課程の編成を工夫する必要があるが出てくる。

実際には、難しい作業は全て西田集落の大人がやるので、当日に小学生が動ける状態にしておくことが一番の連携である。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

伝承や活用で一番大切なことは、その行事を知ることであると考え、「びっこさらっこ」を行う前に、集落の長老からこの儀式のいわれや取り組み方について指導をしてもらっている。

昔とは隊列の組み方や「びっこさらっこ」にかかる時間などが違うことから、昔のとおり再現することはできないが、心構えについては理解させた上で実施している。

また、西田集落の町内会長からは、それぞれの場面で補足の説明を入れてもらいながら実施している。したがって、子どもたちは、その場面で何をしているのかを把握しながら取り組むことができる。

7 取組の様子



長老の説明を聞く子どもたち



仲良く綱を引く子どもたち



川に石を投げる子どもたち



綱を7等分する様子

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- ・ 大声で、「びっこ～さらっこ～」とさけぶところが、とてもたのしいと思いました。
(小3男子)
- ・ 毎年、なわを持って川に石を投げたり、「びっこさらっこ」と言ったりしてやくばらいをするのは大へんだけど楽しみにしています。(小4女子)
- ・ びっこさらっこをとても楽しみにしていました。ハブのようなつなを持って川に行って、石を投げました。大声を出したので声がかれそうでしたが、来年もがんばりたいです。(小5男子)
- ・ わたしは、大きな声で「びっこさらっこ」と言いながら歩きました。長いつなを持って歩き川が見えたところで石を投げました。家族の健康をいのって石を投げました。
(小5女子)
- ・ 大川地区も子どもたちの数が減少してきて、従来のような祭りの形態をそのまま継承することはできない。しかし、地域や学校が知恵を出し合い、できる限り形を変えないようにして伝承していくようにしている。集落内の世代交代も着実に進んでおり、既に、壮年の人たちが中心になって祭りを進行している。(集落代表)